

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果について

紀北町教育委員会
令和3年9月

本年5月27日に、町内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、紀北町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

本調査が児童生徒の学力の全てを表すものではないことに留意する必要がありますが、教育施策や各学校における指導の充実・改善への役立てこそが本調査の目的であることから、結果を踏まえて今後の紀北町の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

※平成31年度から、知識・活用を一体的に問う問題に変更。（例：国語A、国語Bが「国語」）

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

③学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

(4) 調査実施日（全数調査）

令和3年5月27日（木）

(5) 本体調査を実施した学校・児童生徒数〔紀北町〕

【小学校調査】

	対象学校数	実施学校数（実施率）	児童数
小学校	8	7（87.5%）	77人

【中学校調査】

	対象学校数	実施学校数（実施率）	生徒数
中学校	4	4（100%）	103人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項（実施要項抜粋）

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。その際、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮する。

2

教科の調査結果概要

(1) 教科の調査結果

学力調査の問題は毎年異なることから、平均正答率は問題の難易度により毎年変化し、年度間の平均正答率による単純な比較はできない。

そこで紀北町では、文部科学省から配付されている「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答率を100とした場合の本町における得点状況を算出している。そうすることで、全国的な状況との関係について年度間の変化を経年で比較することができる。

小学校

※令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大により実施されず。

	国語		算数	
	国語A	国語B	算数A	算数B
	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	主として「活用」に関する問題	主として「活用」に関する問題
全国	100		100	
令和3年 紀北町	99		100	
令和2年 紀北町	未実施		未実施	
平成31年 紀北町	100		101	
平成30年 紀北町	97	95	98	96
平成29年 紀北町	99	99	100	98

中学校

	国語		数学	
	国語A	国語B	数学A	数学B
	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	主として「活用」に関する問題	主として「活用」に関する問題
全国	100		100	
令和3年 紀北町	96		101	
令和2年 紀北町	未実施		未実施	
平成31年 紀北町	98		102	
平成30年 紀北町	97	98	100	97
平成29年 紀北町	98	99	101	100

令和3年の本町における調査結果の概要として、小学校算数は全国と同値、中学校数学については全国を上まわり、小学校国語・中学校国語についてはいずれも全国を下まわった。

経年で見えていくと、小・中とも算数・数学で成果を上げているが、国語が課題となっている。

しかし、全体的に見てみると全国との差が少なく、紀北町の地においても義務教育の機会均等とその水準の維持が図られていると考えられる。

(2) 無解答率について

【小学校】

国 語	算 数
3. 1 (- 1. 2)	2. 9 (0. 3)

【中学校】

国 語	数 学
4. 6 (- 0. 2)	7. 4 (- 3. 8)

※ () の数値は、全国の平均無解答率との差を示している。

小学校国語、中学校国語・数学において、全国の平均無解答率を下まわっており、最後まで解答を書こうと努力できる粘り強さが高まっていると捉えることができる。

一方で、記述式の問題の無解答率が他の問題に比べて高くなっており、記述する問題に対応できるよう指導の改善を図る必要がある。

(3) 各教科における特徴

小学校

①【国語】

『知識及び技能』の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題は、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。一方、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題は、平均正答率が全国平均を下回っており、課題がみられる。

『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」については、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」問題は、平均正答率が全国平均を上まわっている。

「読むこと」については、全国的にも課題が見られるが、紀北町においても同様である。特に、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」問題に課題がみられる。

「書くこと」については、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」問題、「目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く」問題も平均正答率が全国平均を下まわっている。

記述式の問題については、いずれも平均正答率が全国平均を下回っており課題である。

②【算数】

「データを二次元の表に分類整理する」問題（「データの活用」）、「場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする」問題（「数と計算」）については、平均正答率が全国平均を大きく上まわっている。また、「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」問題（「図形」）、「棒グラフから、項目間の関係を読み取る」問題（「データの活用」）についても、平均正答率が全国平均を上まわっている。

一方、「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」問題（「数と計算」「測定」）、「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」問題（「図形」）、「帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」問題（「データの活用」）については、いずれも記述式の問題で、平均正答率が全国平均を下まわり、さらに無回答率が全国平均を上まわっている。

「事実」を記述する問題、「方法」を記述する問題、「理由」を記述する問題に課題がある。

中学校

①【国語】

「話合いの話題や方向を捉える」問題(「話すこと・聞くこと」)、「文脈に即して漢字を正しく読む」問題(「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)については、平均正答率が全国平均を上まわっている。

一方、「文脈の中における語句の意味を理解する」問題、「登場人物の心情や行動について読み、考え、内容を理解する」問題等、「読むこと」の領域全ての問題について、平均正答率が全国平均を大きく下まわっている。

また、「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」問題(「話すこと・聞くこと」)

「書いた文章を互いに読み合い文章の構成の工夫を考える」問題(「書くこと」)、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題、「(読むこと)」、「伝えたい事柄が相手に伝わるように書く」問題(「書くこと」)については、いずれも記述式の問題で、平均正答率が全国平均を下まわっており、中学校においても課題となっている。

②【数学】

「経過した時間と影の長さの関係を表現する」問題(「関数」)については、全国平均を大きく上まわっている。

また、「整式の加法と減法」の問題(「数と式」)、「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について正しいものを選ぶ」問題(「図形」)、「与えられたデータの中央値を求める」問題(「資料の活用」)、「錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を記号を用いて表す」問題(「図形」)について等、

16問中10問が全国平均を上まわっている。

学習指導要領の領域の平均正答率の状況を見ると、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」とバランスがよく、特質課題となる領域はみられない。

また、記述式の問題においても、4領域で5問出題されているが、「数と式」「関数」「資料の活用」について、平均正答率が全国平均を上まわっている。

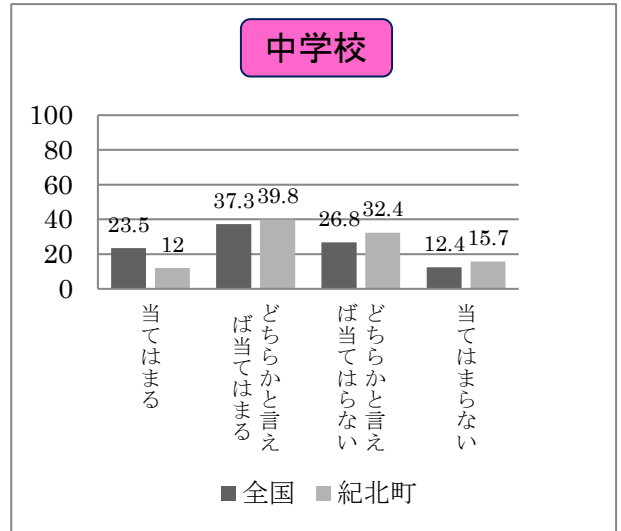
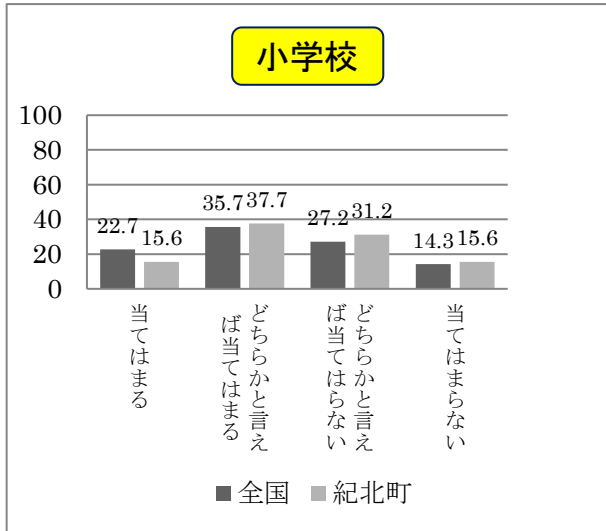
唯一、平均正答率が全国平均を5ポイント以上下回ったのが、「4つの数の和が、4の倍数になるかどうか確かめる式を書く」問題(「数と式」)で、課題がみられる。

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載します。

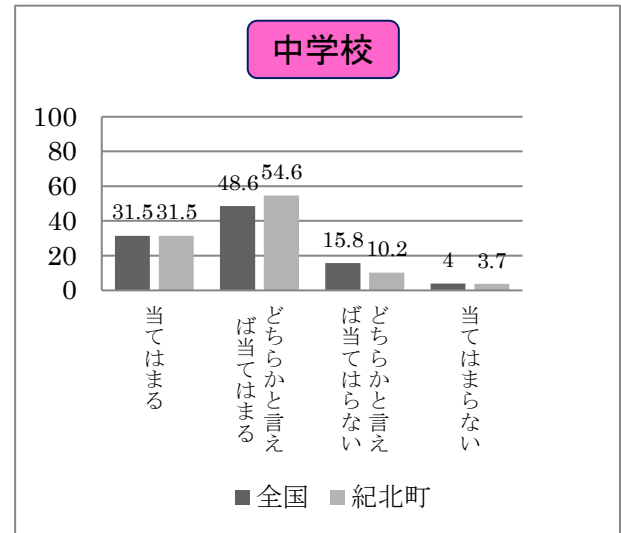
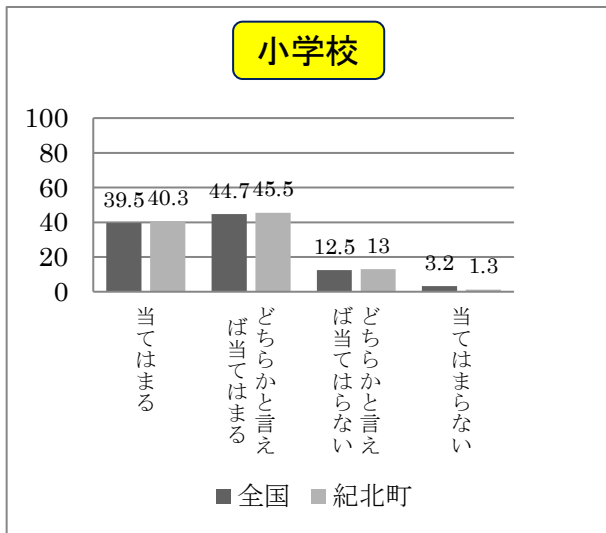
(1) 学校教育に関する特徴的なこと

- 「国語、算数・数学の勉強は好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、算数・数学は小学校、中学校とも全国より高く、国語は小学校、中学校とも全国より低い。
- 「英語の勉強は好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 「国語、算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「授業の話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じ、中学校は全国より高い。
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。

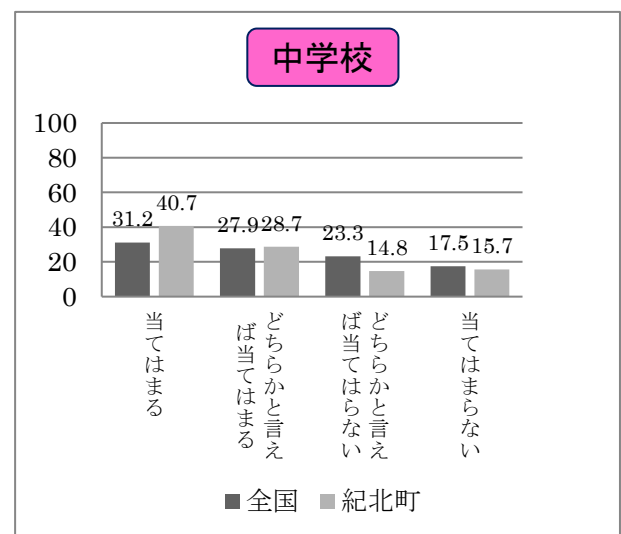
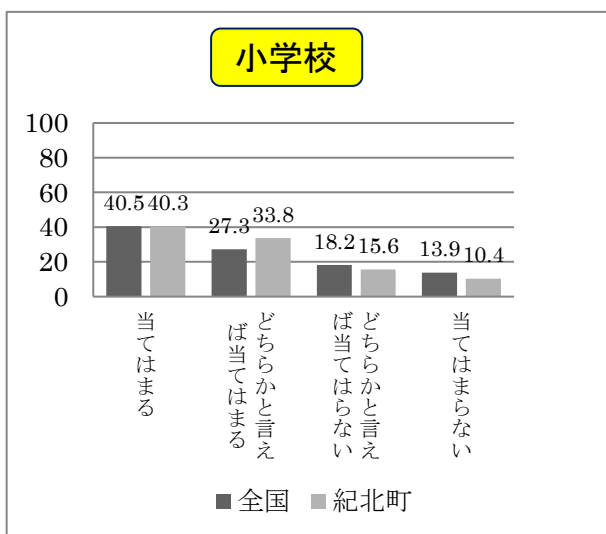
①国語の勉強は好きですか。



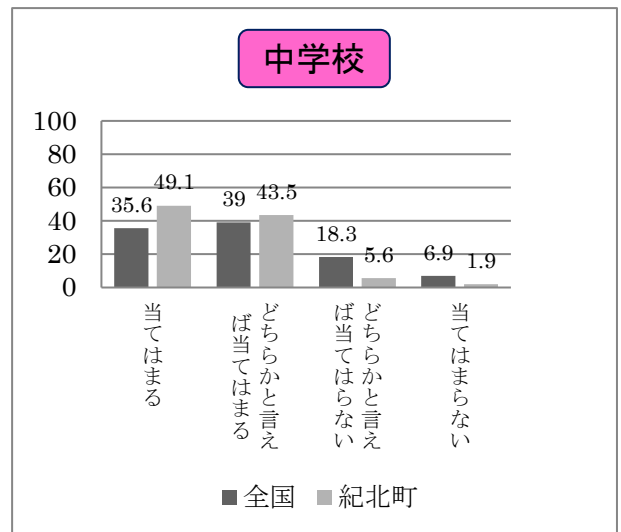
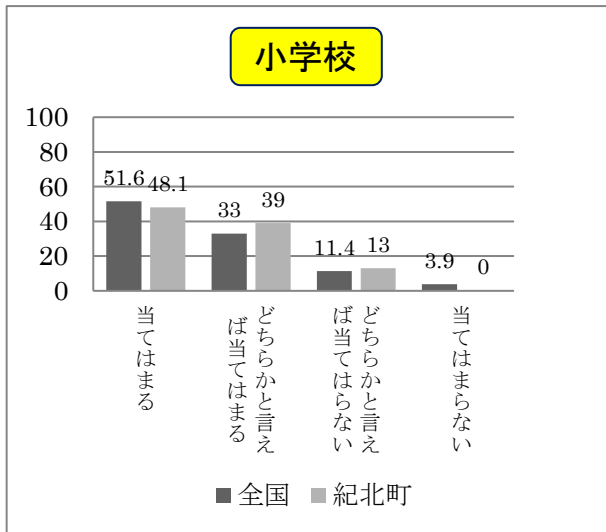
②国語の授業内容はよく分かりますか。



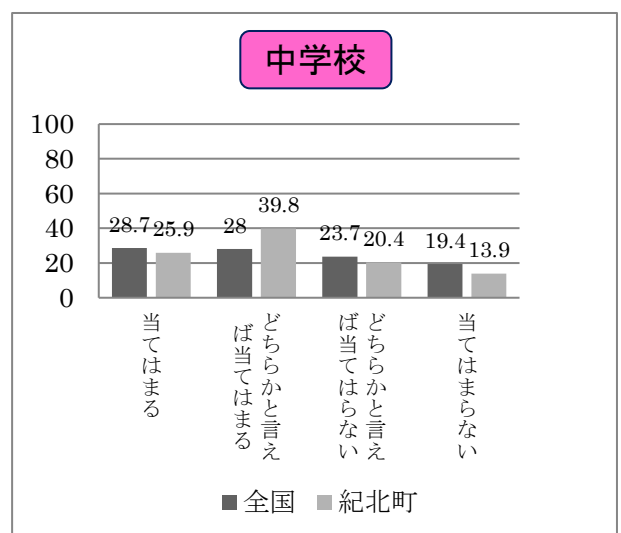
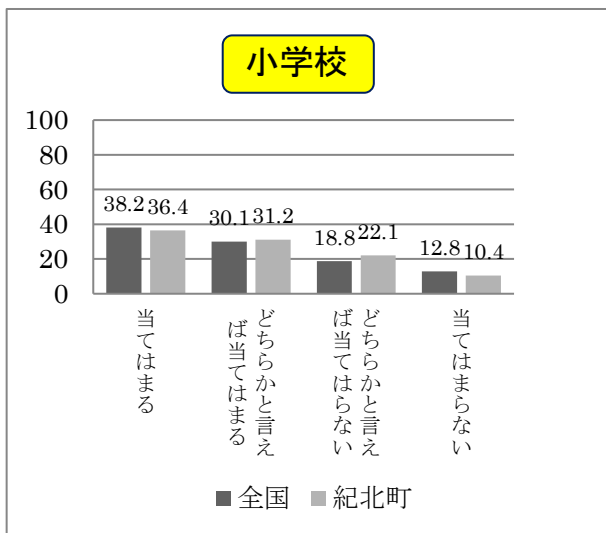
③算数・数学の勉強は好きですか。



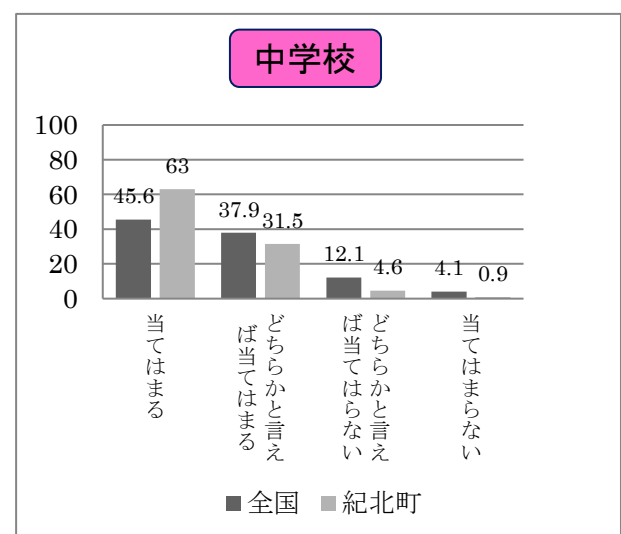
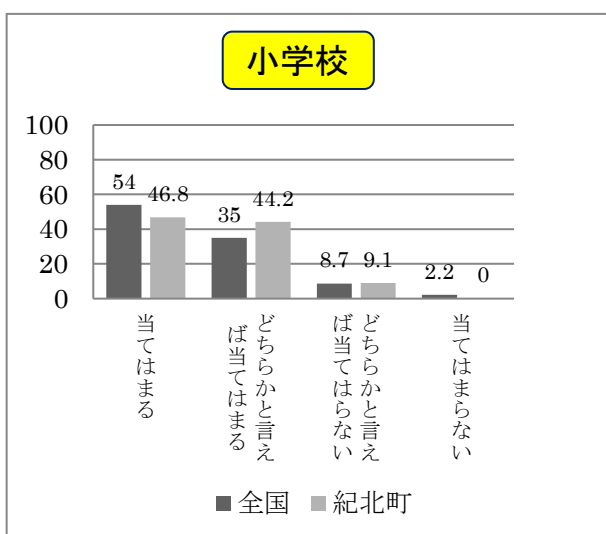
④算数・数学の授業内容はよく分かりますか。



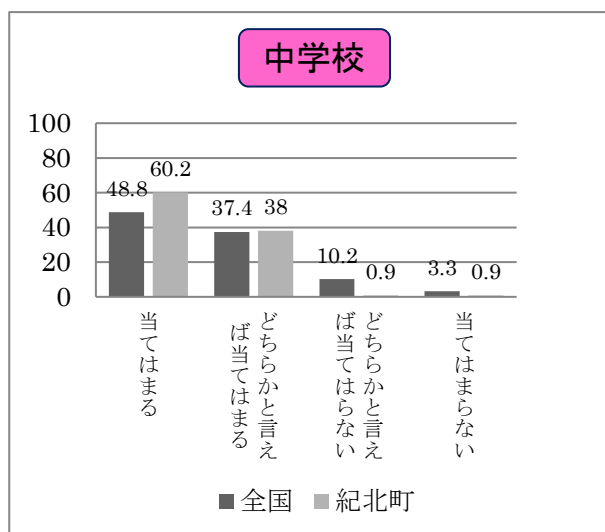
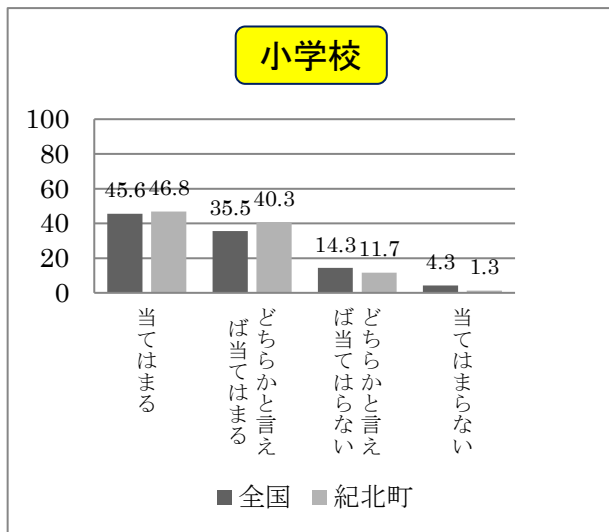
⑤英語の勉強は好きですか。



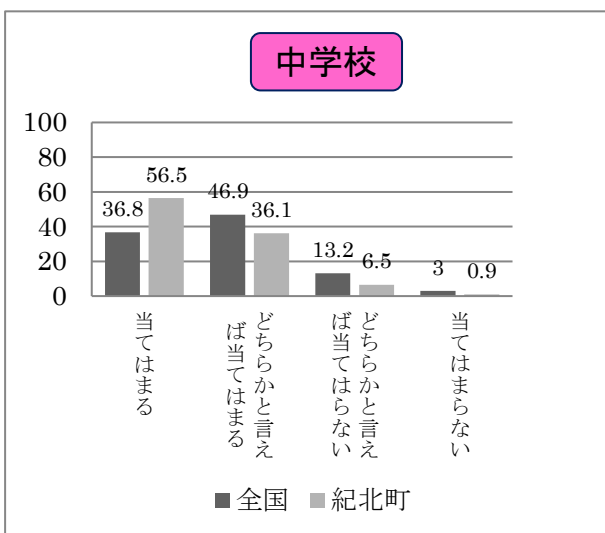
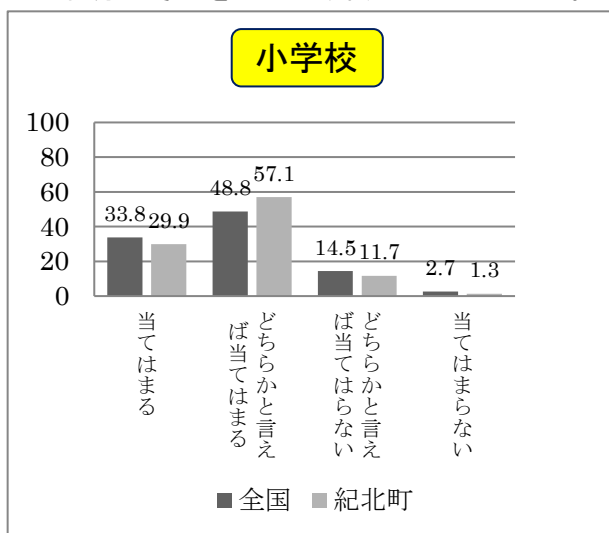
⑥算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。



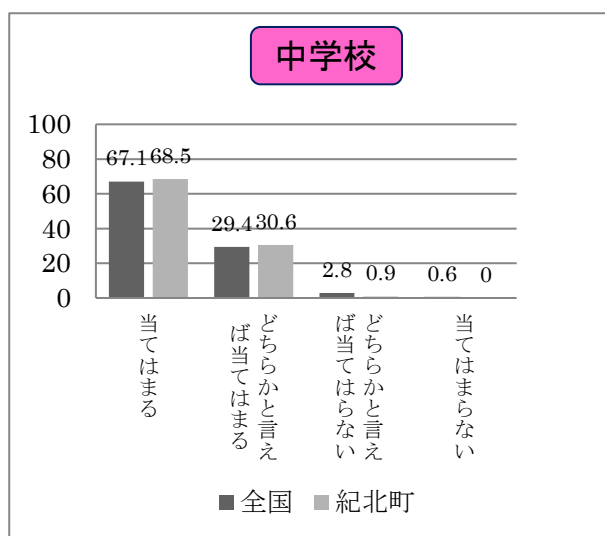
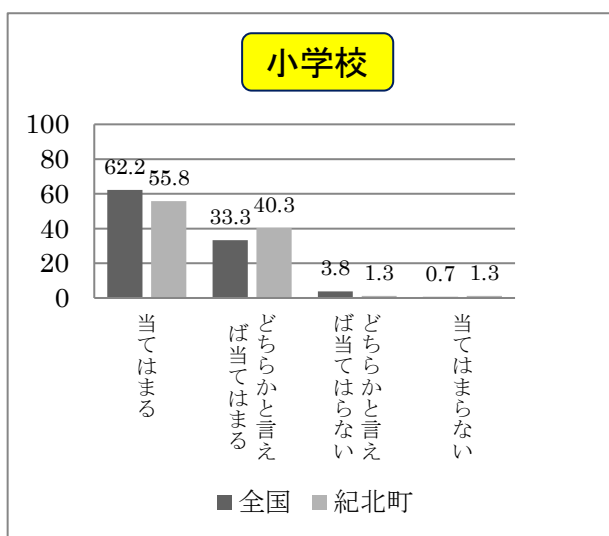
⑦道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



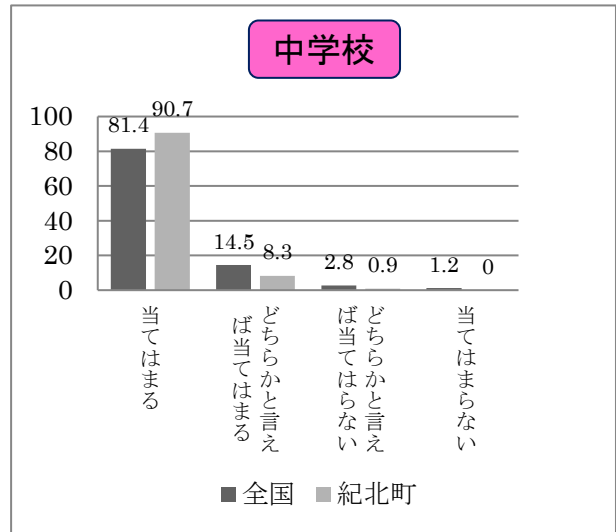
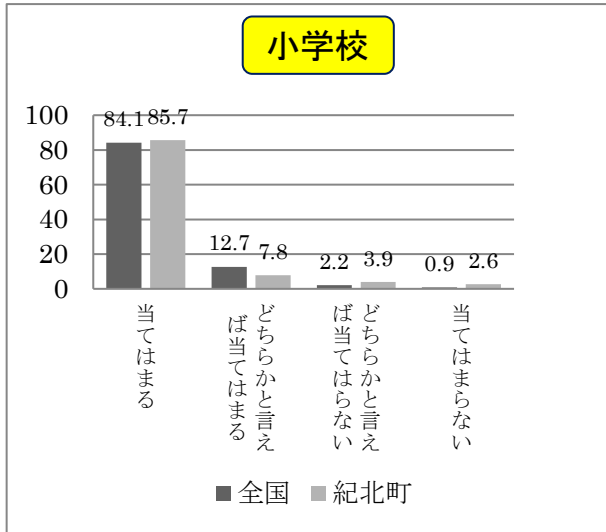
⑧授業の話し合う活動では話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。



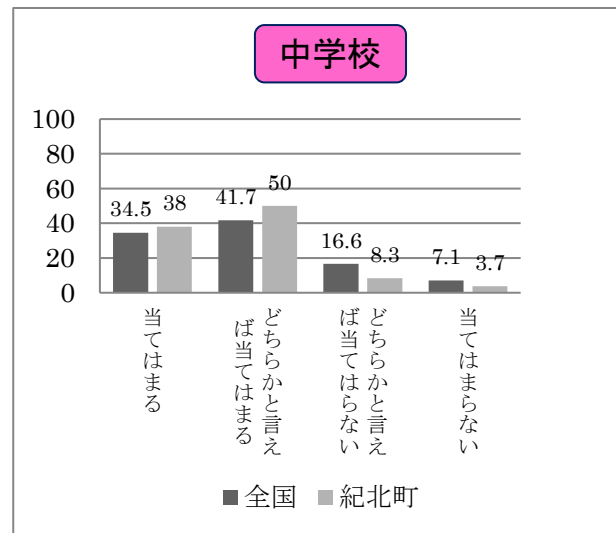
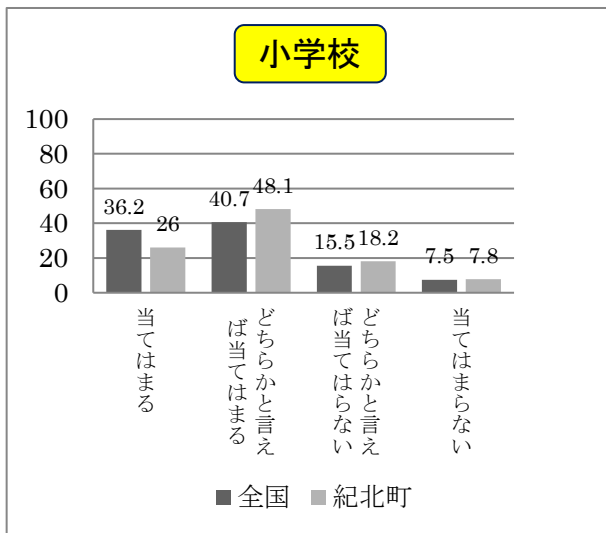
⑨友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



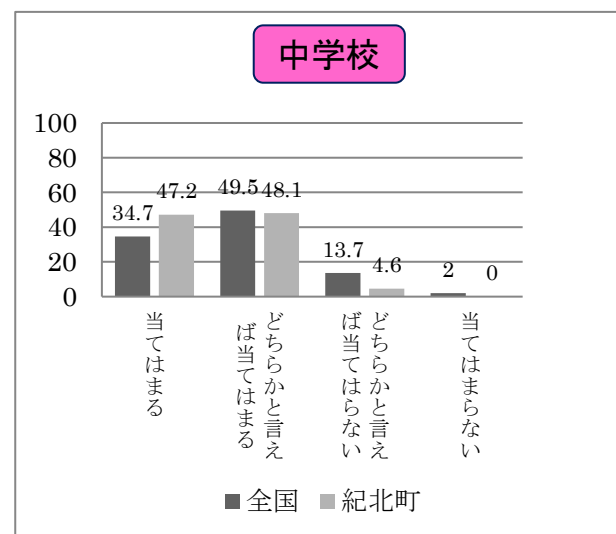
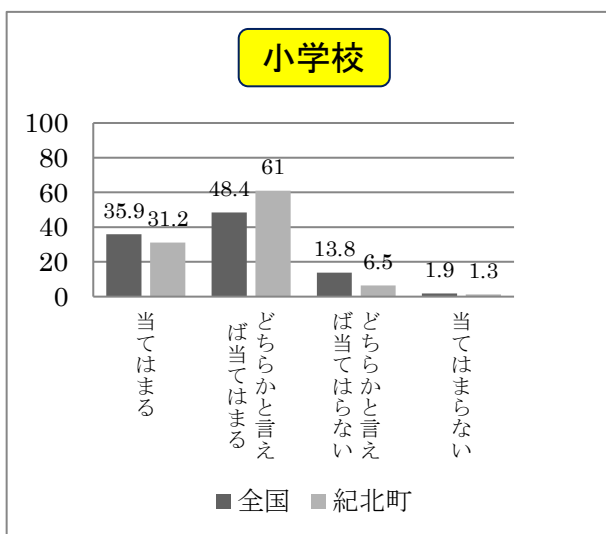
⑩いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



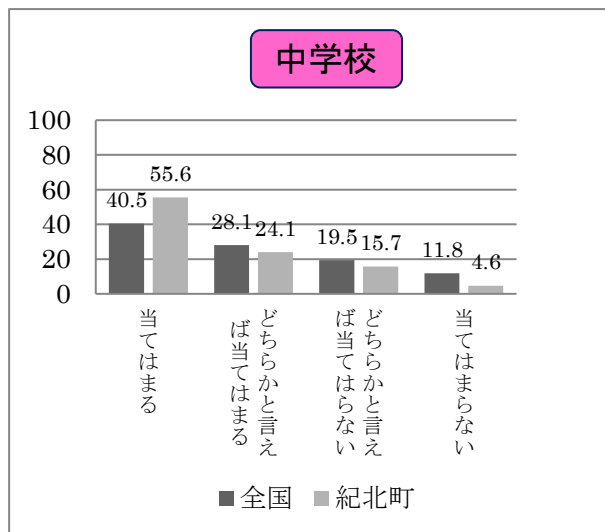
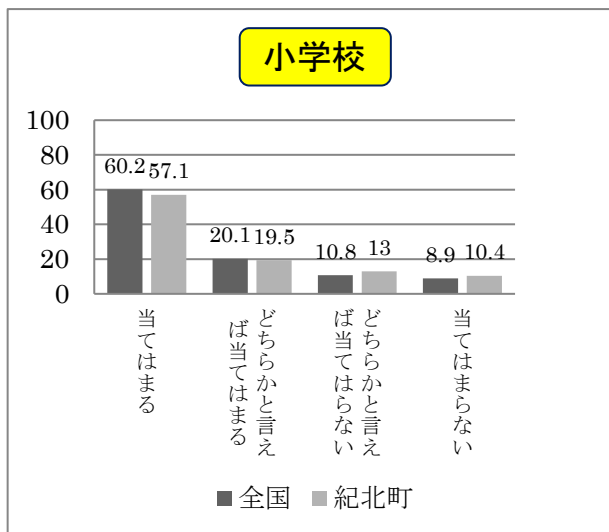
⑪自分には、よいところがあると思いますか。



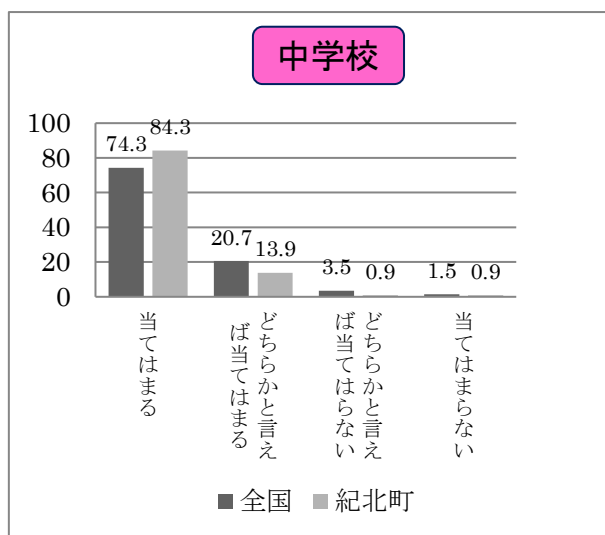
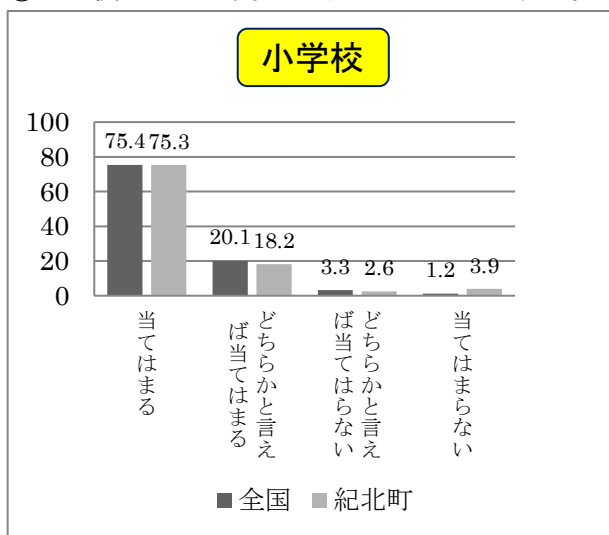
⑫自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



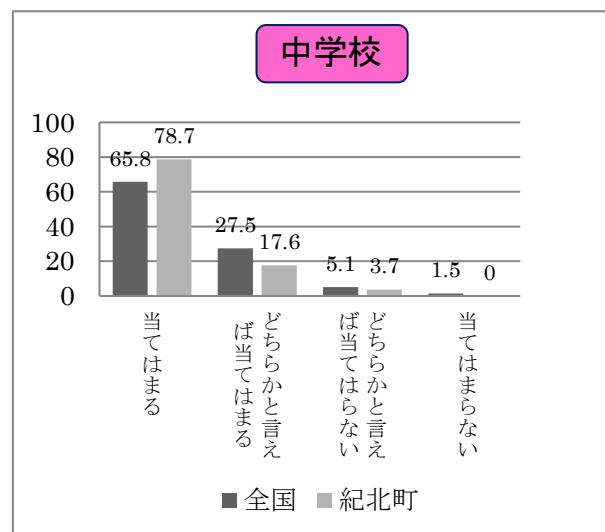
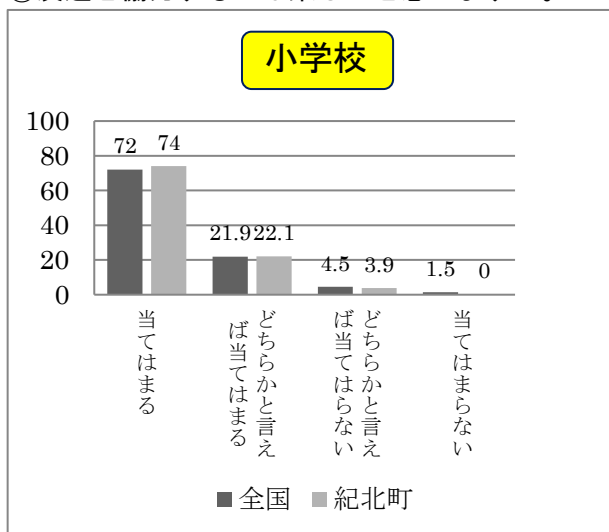
⑬将来の夢や目標を持っていますか。



⑭人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



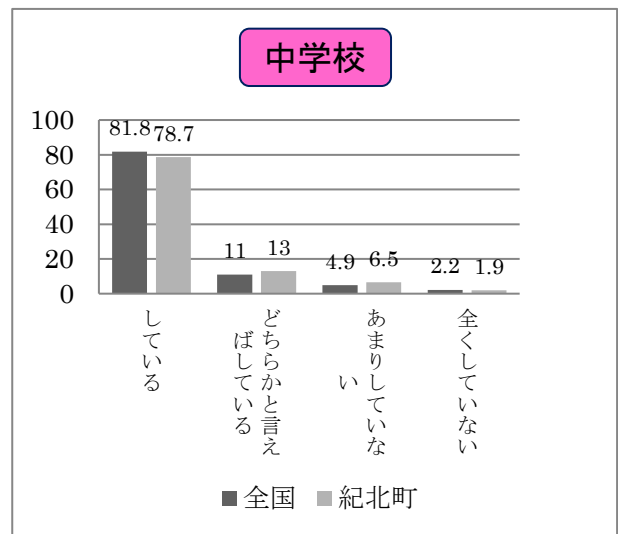
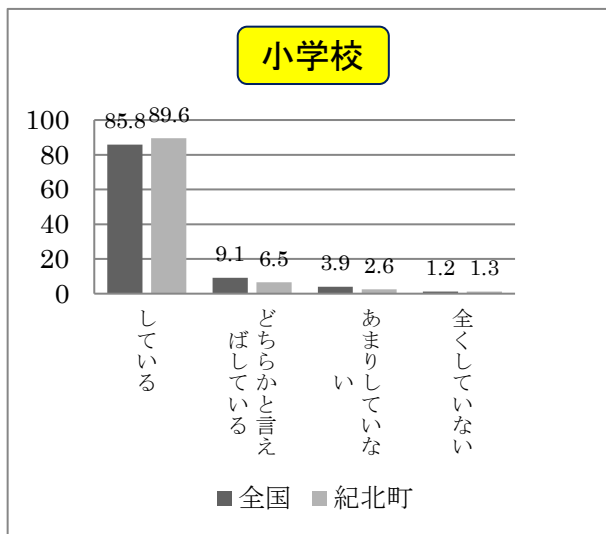
⑮友達と協力するのは楽しいと思いますか。



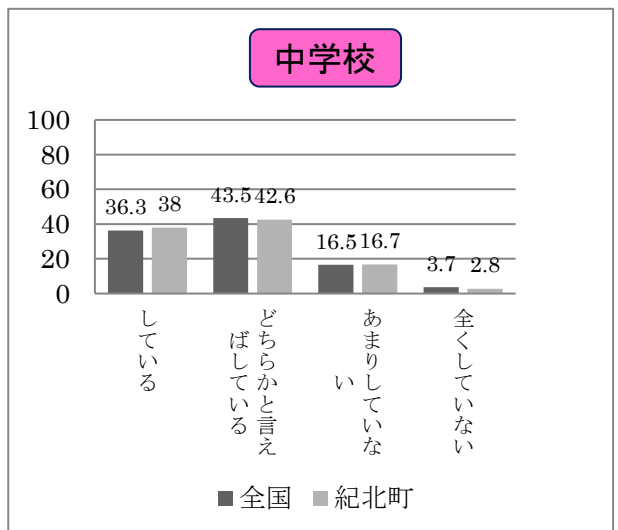
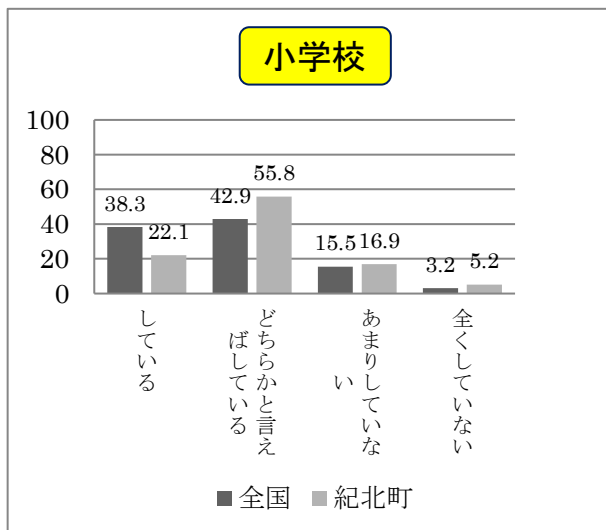
(2) 基本的な生活習慣で特徴的なこと

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国とほぼ同じである。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国とほぼ同じである。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国よりも低く、中学校は全国とほぼ同じである。

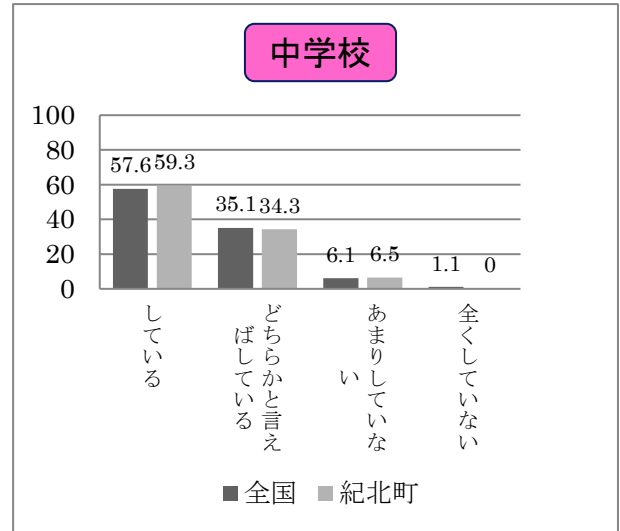
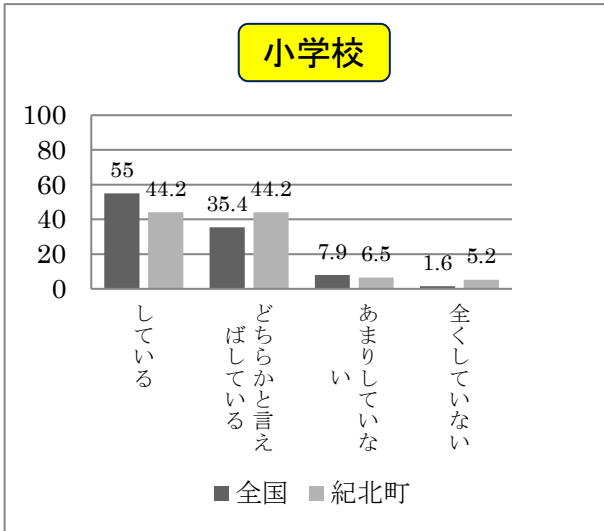
①朝食を毎日食べていますか。



②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



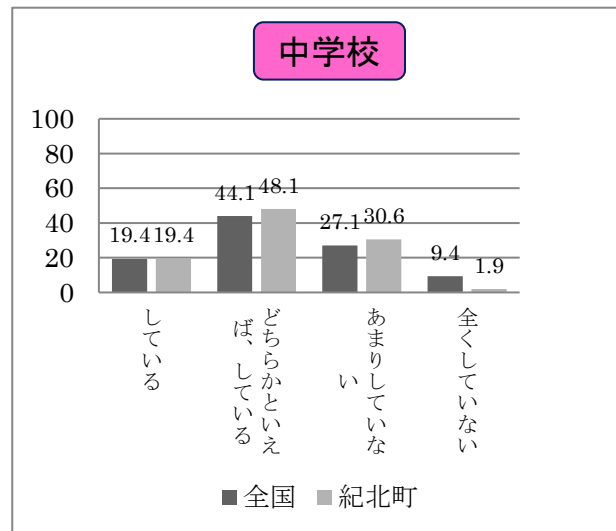
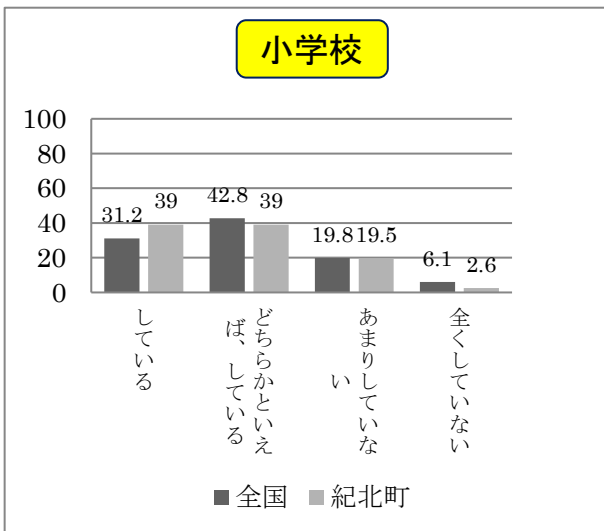
③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



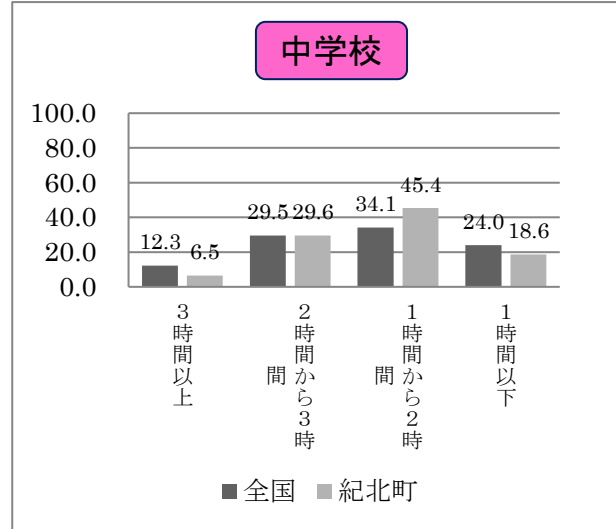
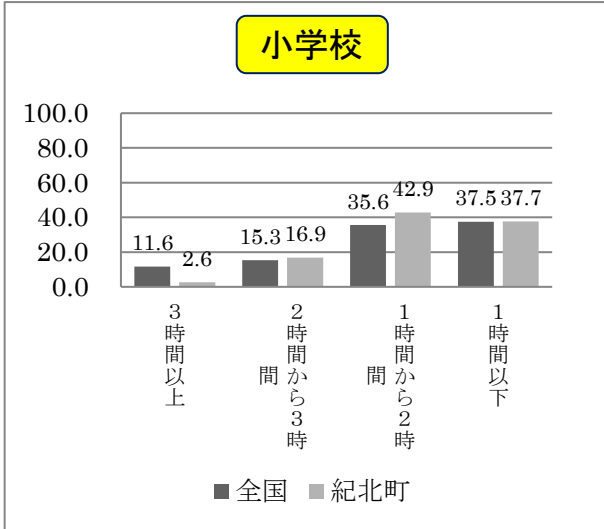
(3) 家庭学習で特徴的なこと

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）2時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低い。
- 小学校も中学校も、普段（月～金曜日）読書する時間が、全国より短い。
- 新聞をほとんど、または、全く読まない児童生徒の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国とほぼ同じ。

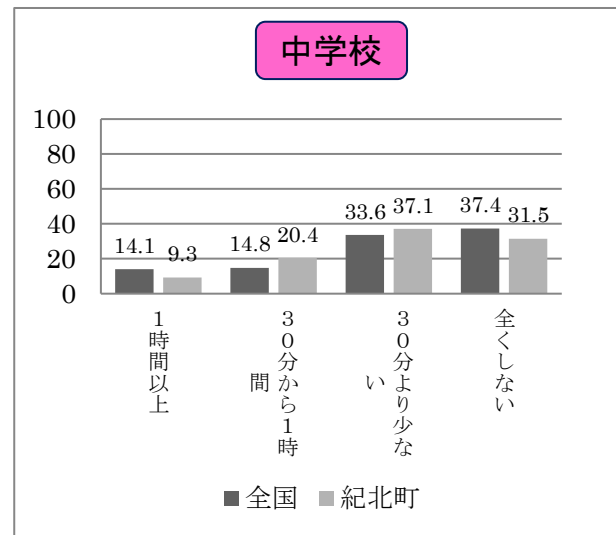
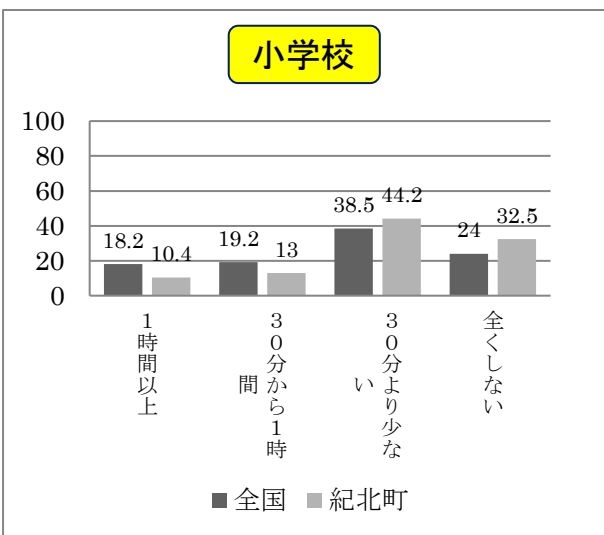
①家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



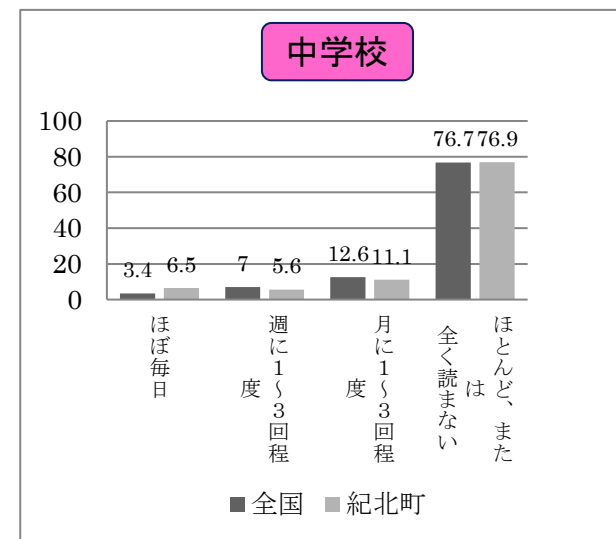
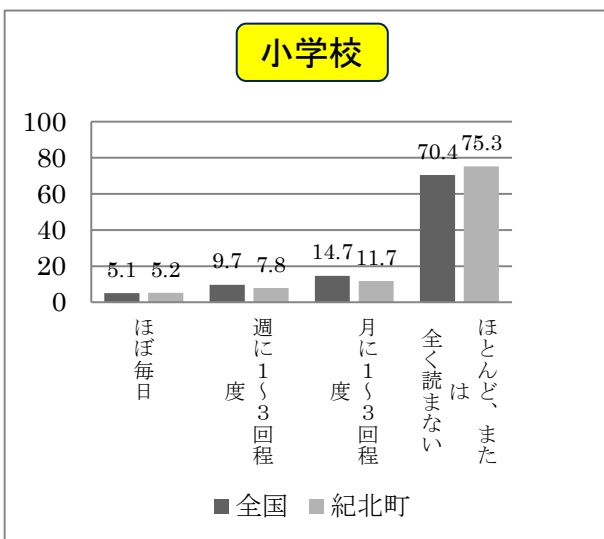
②普段（月～金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



③普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



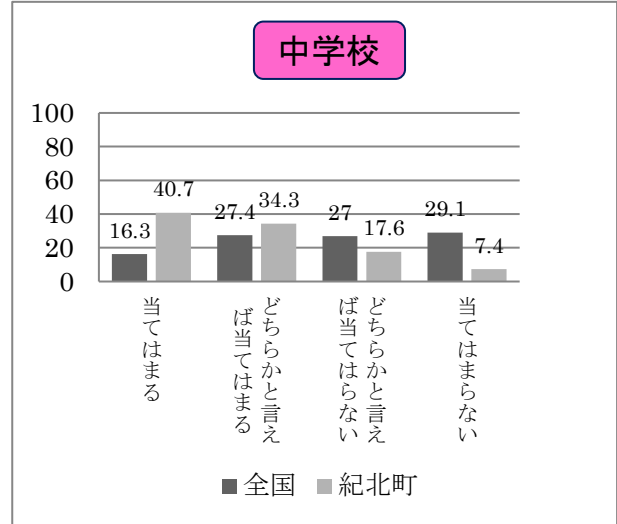
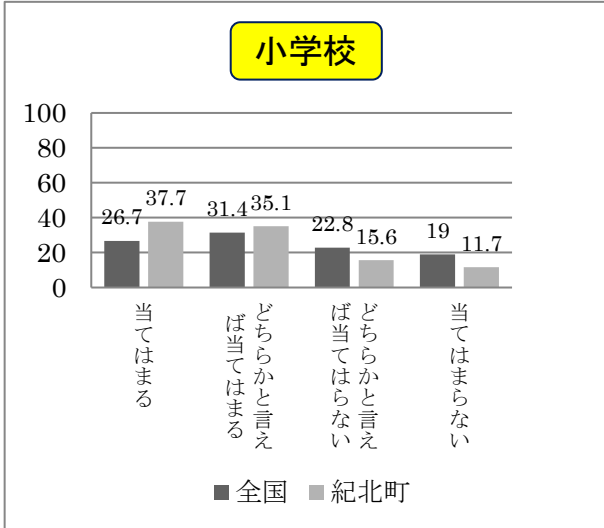
④新聞を読んでいますか。



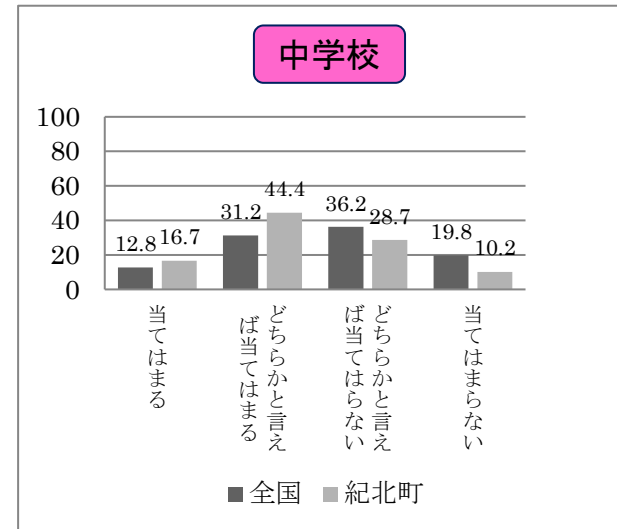
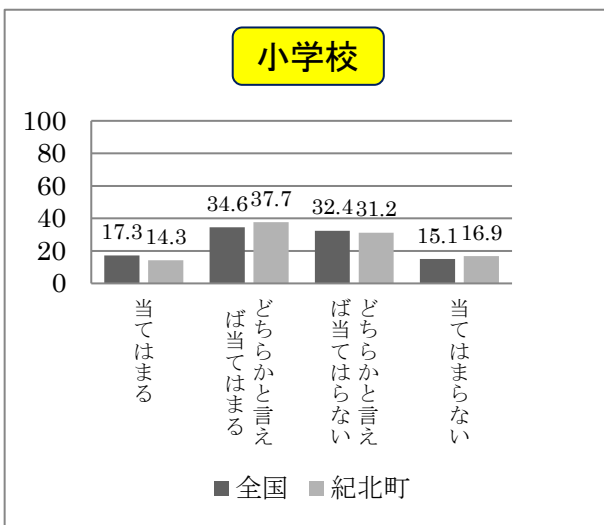
(4) 地域貢献・社会貢献で特徴的なこと

- 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じで、中学校は全国より高い。

①今住んでいる地域の行事に参加していますか。



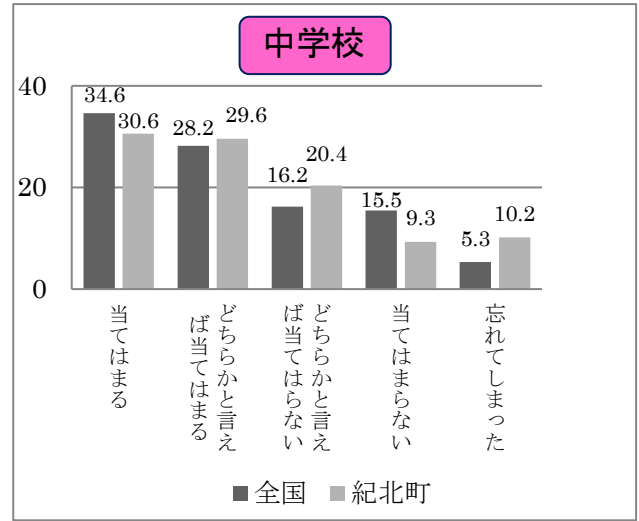
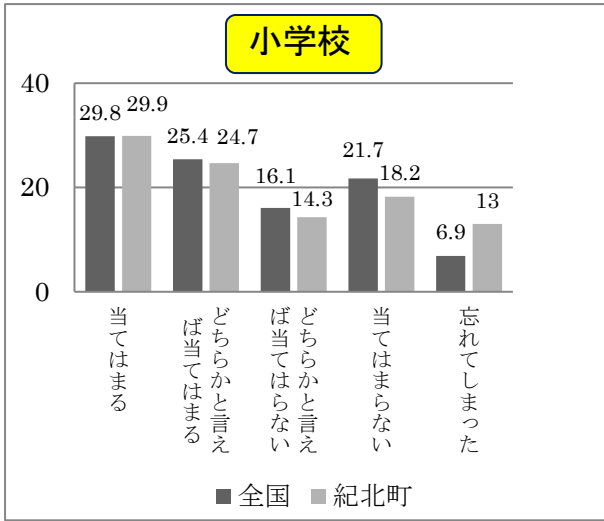
②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



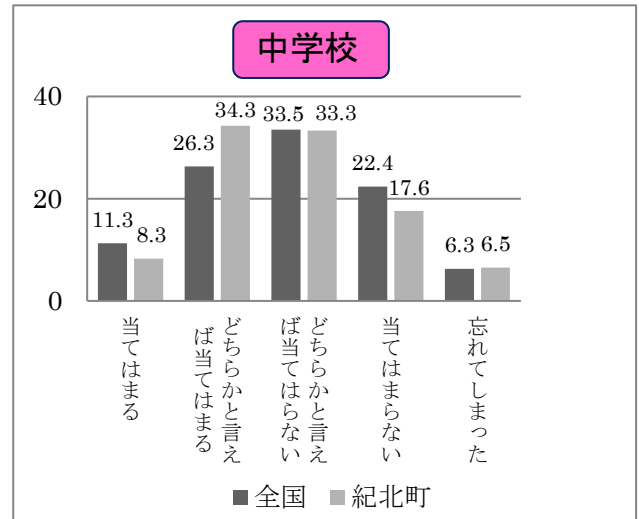
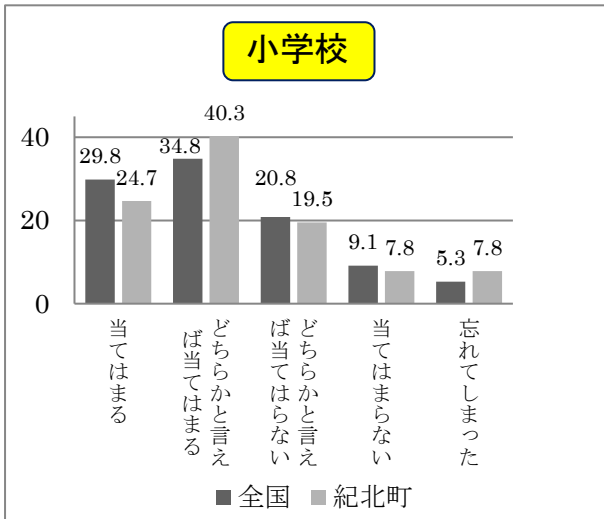
(5) 新型コロナウイルス感染症に係る休校で特徴的なこと

- 新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた割合は、小学校、中学校とも全国とほぼ同じである。
- 新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じで、中学校は全国より高い。
- 新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送ることができた割合は、小学校、中学校とも全国とほぼ同じである。

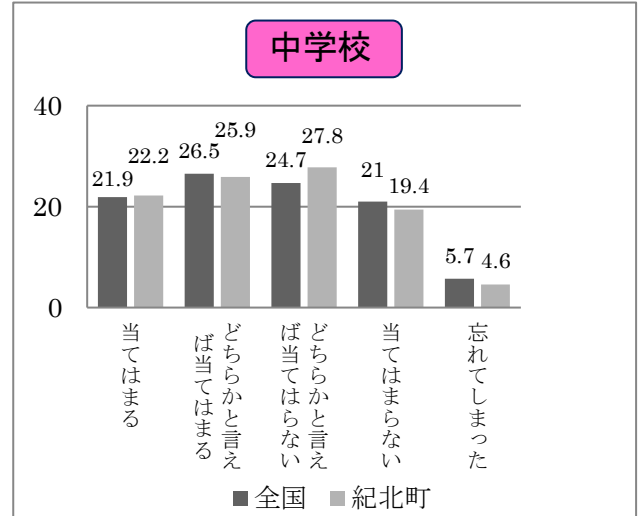
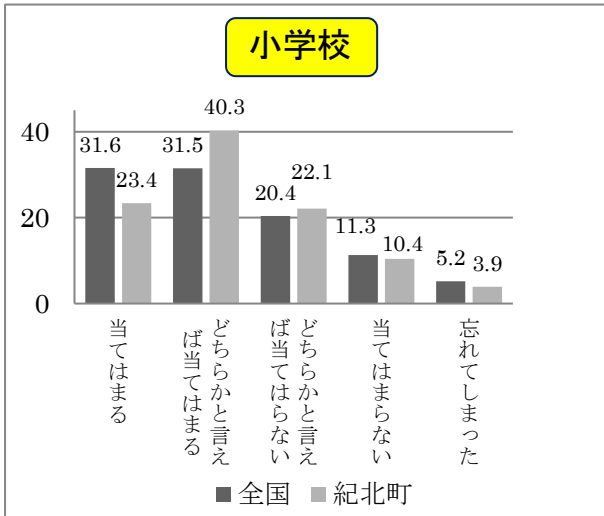
①勉強について不安を感じましたか。



②計画的に学習を続けることができましたか。



③規則正しい生活を送っていましたか。



「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。ここでは、「学校質問紙調査」のうち、特徴的な傾向とその分析を記載します。

「児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」という質問項目に、「そのとおりだと思う」「どちらかと言えば、そう思う」と回答した学校の割合は全国より高く、授業に取り組む姿勢や授業規律の確立に向けた取組が進められていることがうかがえる。

また、以下の項目で肯定的に回答した学校が多く見られ、授業改善に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることがうかがえる。

- 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる。
- 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行っている。
- 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がその根拠を理解できるように工夫している。
- 調査対象学年の児童生徒に対する国語、算数・数学の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行っている。
- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。
- 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている。
- 学校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。

一方、以下の項目を肯定的に回答した学校の割合は全国より低く、課題改善に向けた取組をより進めていくことが必要ととらえている。

- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行っている。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字程度で児童生徒にまとめさせたことがある。

(1) 大切にしたい3つのポイント

①基礎・基本の確実な定着をめざします。

学年に応じた繰り返しの学習活動を取り入れることや、家庭学習の充実などに取り組むことで、基礎・基本の定着を図ります。

また、必要に応じて放課後、長期休業中等に個別指導を行います。

②活用力の育成をすすめます。

基礎的・基本的な知識・技能を身につけるだけでなく、学んだ知識・技能を基盤として、活用する力の育成を図ります。

③めあて・振り返りを意識した授業改善に取り組みます。

子どもたちや教師が、毎時間の授業の達成目標を明確にし、見通しを持って学習に取り組めるように、授業の冒頭に「めあて」や「見通し」を提示したり、授業の終わりに学習を振り返る活動を取り入れたりする授業改善に取り組みます。

(2) 学力向上委員会の開催

各学校における家庭学習の充実や授業改善に資するよう、町全体としての課題について共通理解を図るとともに、学力向上の方策について検討します。また各中学校区での授業実践交流を行い、教職員の実践力、授業力の向上を図ります。

保護者と連携し、チェックシート等を活用し、子どもたちの家庭学習の実態、生活習慣、読書等を把握し、成果と課題について共通理解を図るとともに家庭学習の充実のための方策について検討します。

(3) 継続した授業改善の取組

①全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック等の結果分析を活用して、各校の強み・弱みを把握し、「できない」を「できるようにする」取り組みを行います。

②言語活動の充実を図るための授業改善に取り組みます。

③「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組みます。

(4) 研修の充実

①学校の要請に基づき、学力向上アドバイザー、指導主事等を派遣して校内研修の指導・支援を図ります。

②町教育委員会主催の「テーマ別研修会」や「ミニ研修講座」を開催します。

③新学習指導要領完全実施や授業改善に向けた先進校視察を行います。

(5) 補充学習の充実

- ①授業後半の「振り返り」「適用問題」等から見えてくる子どもたちのつまずきから、放課後、長期休業中の補充学習につなげます。
- ②補充学習には、「全国学力・学習状況調査過去問」、「みえスタディ・チェック過去問」、「三重の学-Viva!!セット」等を活用します。

(6) 家庭学習の充実

- ①チェックシート等を活用し、子どもたちの家庭学習の実態を把握するとともに、成果と課題について分析し家庭に還流します。
- ②紀北町スタンダードとしての家庭学習のあり方を設定し、児童生徒、保護者への啓発を進めます。

(7) 読書活動の推進

- ①読書に親しんだり、授業で活用したりする活動を推進し、子どもたちが知識を広げ心豊かに成長するよう学校図書館活動の充実と活性化に努めます。
- ②「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の活動の推進を図ります。
- ③図書館司書の配置を推進します。
- ④「読書のすすめ」を発行します。

(8) 家庭・地域との連携

規則正しい生活習慣づくり、また、携帯電話やスマートフォン、ゲーム、インターネット等の適正な使用について、家庭・地域と連携しながら取組を推進します。

(9) その他

児童生徒一人ひとりが居心地の良い学校・学級集団をつくり、安心して学べる学習環境をつくるために、すべての学年において学級満足度調査(Q-U)を実施し、その結果を活かした生徒指導を行います。

家庭・地域のみなさまには、今後も紀北町の教育活動へのご理解・ご協力とともに、子供たちの成長へのサポートをお願いいたします。